

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	朝霞の次代を担う人材の育成			総合計画コード	311
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課、教育管理課、学校給食課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	児童生徒一人一人の豊かな心と人間性が育成され、たくましく生きていくための健康や体力が身に付いている。				
施策概要	学校における道徳教育や人権教育を推進するとともに、児童生徒の悩み等を解決するための教育相談を充実させる。 また、学校や家庭に対して食育への啓発を図り、学校と家庭が連携した食育の推進を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 2 年度
				H 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	スクールカウンセラー7人を市内全小中学校へ配置、さわやか相談員5人、サポート相談員11人を配置。 食育啓発リーフレット「あさかをたべる」、11,500枚の作成及び配付。					
R2年度の 基本概念(コンセ プト)の実施内容	安全・安心な まち	一人一人が尊重される人間関係づくりのため、教育相談の手法をいかすことができた。				
	子育てが しやすいまち	学校と家庭がいっしょになり、児童生徒の成長を見守ることができた。				
	つながりのある 元気なまち	小・中学校の連携や地域との連携の中から、多くの視点を持って児童生徒を見守ることができた。				
	自然・環境に 恵まれたまち	学校の学習環境づくりを進めることができた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		1,239,713	1,258,673	1,287,786	1,523,232	2,043,119

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 「教育に関する3つの達成目標」規律ある態度の達成状況 (説明) 朝霞市「教育に関する3つの達成目標」の効果の検証における、「規律ある態度」のアンケート結果における平均達成率	%	小・中学校とも全項目において85%を上回る 86	小・中学校とも全項目において85%を上回る 88	小・中学校とも全項目において85%を上回る 88	小・中学校とも全項目において85%を上回る 89	小・中学校とも全項目において85%を上回る 88
② (説明)						

### 3. 施策の分析

<p>達成度  (目標の達成状況はどうか)</p>	<p><input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)</p> <p><input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点)</p> <p><input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 教育に関する3つの達成目標のうち「児童・生徒の規律ある態度」について、整理整頓、学習準備、話を聞き発表する等、年度によって異なる内容で若干の課題は見受けられるが、全体として児童・生徒の規律ある態度は、着実に育っている。また、児童・生徒の相談活動については、各学校や子ども相談室にスクールカウンセラー、さわやか相談員やサポート相談員を配置し、適切に行うことができている。いじめについては、いじめの月例調査やいじめ防止月間を設け、アンケートを実施する等を行い成果を上げている。朝食の重要性については、アンケートやリーフレットを通して、広く学校や家庭に啓発した結果、毎日食べる児童・生徒は毎年93%を超えている。</p>
<p>必要性  (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p><input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある</p> <p><input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある</p> <p><input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) ICT技術が急速に変化していく中で、児童生徒を取り巻く生活環境も大きく変化し、従来からの課題である不登校、問題行動等に加え、ネット上でのいじめの問題が社会問題となっている。また、家庭環境も多様化し、食事の摂り方も家庭により多様化してきている。児童生徒の豊かな心を育成したり、家庭と連携した食育を推進したりすることは、今後ますます重要になってくると思われる。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) 不登校児童生徒が抱える背景や課題は多様化しており、保護者によっては教育相談を実施することができない家庭もある。問題も複雑化したりしており、解決することが非常に困難なケースもある。また、医療機関等外部との連携が必要なケースもある。 子供を取り巻く生活環境が変化し、生活の中で体を動かす機会が減少してきている。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 教育相談活動のさらなる充実を図る。特に、不登校児童生徒の教育機会の確保に向け、児童生徒個人への働きかけにとどまらず、家庭等の生活環境への働きかけにも重点を置く。相談員やスクールソーシャルワーカー等による家庭訪問を通して、積極的に情報を収集し、実態を把握し、児童生徒の個に応じた対応を図る。各小・中学校における体力向上推進委員会の活動を充実させ、各学校の実態に応じた児童生徒の体力向上のための取組を進める。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p><input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 不登校児童生徒への対応や食育推進活動においては、家庭の協力なくしては行えないので、今後とも家庭(保護者)との連携を推進する。食育についてはアンケートやリーフレットの配布をとおして啓発活動を行い、市民に今まで以上に食育の重要性を認識してもらう。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">R3に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>R1決算</th> <th>R2決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計(単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性	R1決算	R2決算見込	1						2						3						4						5						計(単位:千円)			—	—	—	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				R3に向けた 投入資源の方向性																																						
	R1決算	R2決算見込																																												
1																																														
2																																														
3																																														
4																																														
5																																														
計(単位:千円)			—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>いじめや虐待、貧困の問題に関しては、関係部署や関係機関、学校の相談機関など、情報を持つ機関が、連携し横断的に対応して欲しい。外国人世帯、ひとり親世帯などに対しても調査を行うなど、踏み込んだ実態調査を行って欲しい。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>児童生徒の健全育成は教育の根幹にかかわる重要な施策である。学校において、確かな学力の育成を図るうえで、豊かな心及び健やかな体とのバランスは欠かすことができないものである。生徒指導や教育相談体制の整備充実を図り、教育効果のさらなる向上を目指し、広く家庭や地域との協力・連携を推進していく。また、社会福祉・医療など他機関との連絡調整を密に図り、児童生徒一人一人に寄り添った施策をより一層推進する。</p>																																													

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	朝霞の次代を担う人材の育成			総合計画コード	311
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課、教育管理課、学校給食課)				

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 教育委員会運営事業	5,447	5,279	4	3	現状のまま
	2 教育委員会事務局事務事業	4,376	4,233	4	3	現状のまま
	3 教育相談事業	32,498	38,262	4	4	現状のまま
	4 ふれあい推進事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
	5 教育指導支援事業	20,583	28,461	4	4	現状のまま
	6 教職員研修事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
	7 児童・生徒・教職員健康管理事業	51,506	54,807	4	3	現状のまま
	8 学校保険事業	12,562	12,844	4	3	現状のまま
	9 学校給食運営事業	937,247	876,295	4	4	拡大
	10 給食センター管理事業	142,418	135,317	4	4	縮小
	11 自校給食管理事業	24,673	23,337	4	4	拡大
	12 給食食材放射性物質測定事業	2,601	3,059	4	4	現状のまま
	13 第八小学校自校給食施設等整備事業	289,321	861,225	5	5	R2で休止・廃止・終了
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	1,523,232	2,043,119	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

## 施策評価シート(対象: R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	確かな学力と自立する力の育成			総合計画コード	312
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課)				

### 1. 施策概要

めざす目的成果	チーム・ティーチングや少人数指導などによる個に応じた指導の充実、情報教育の推進、教職員研修の推進等とおして、児童並びに生徒の学力や規律ある態度の育成が図られている。				
施策概要	小学校低学年補助教員及びあさか・スクールサポーターの配置、小・中学校英語指導助手の配置、通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒支援員の配置、コンピュータの保守・点検、研究開発学校の指定、校内研修の助成等により、教育内容の充実を図る。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 2 年度
				H 年度 ~	H 年度
				H 年度 ~	H 年度

### 2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	小学校低学年補助教員を全小学校へ合計27名配置。 あさか・スクールサポーターを全小・中学校へ合計17名配置。 市内各小・中学校のコンピュータの活用の推進及び保守・点検。 朝霞市教育委員会研究開発学校の指定と研究発表会の開催。 小学校英語指導助手を市内10校に対し7人配置。全小学校の3・4年生の各学級に年間15回、5・6年生の各学級に年間50回外国語活動のチーム・ティーチングを実施。 中学校英語指導助手を市内全中学校に各1名配置。英語担当教員とチーム・ティーチングを実施。 通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒支援員を市内関係各小・中学校へ3,000回以上派遣。					
R2年度の 基本概念(コンセプト) の実施内容	安全・安心なまち	児童生徒一人一人の個に応じた適切な指導を行った。				
	子育てがしやすいまち	外国籍の子供たちの日本語指導も含め、個に応じた指導を行った。				
	つながりのある元気なまち	世界の国々のことを知るとともに、朝霞に対して故郷意識を持たせた。				
	自然・環境に恵まれたまち	教科等や特色ある学校づくりの中で環境教育を推進した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		92,605	93,412	101,791	102,266	124,798

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 学習状況調査の達成状況  (説明) 小学校6年生と中学校3年生を対象に実施される、全国学力・学習状況調査における各A問題における平均正答率	%	全国平均値を上回る	全国平均値を上回る	全国平均値を上回る	全国平均値を上回る	全国平均値を上回る
		朝霞市 72 全国 72	朝霞市 67 全国 65	朝霞市 70 全国 69	朝霞市 69 全国 66	朝霞市 - 全国 -
②  (説明)						

### 3. 施策の分析

<p>達成度  (目標の達成状況はどうか)</p>	<p><input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)  <input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点)  <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明)          全国学力・学習状況調査は、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、中止となった。小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーター、英語指導助手などの人的配置は計画通り実行できており、児童生徒一人一人へのきめ細かな学習支援・生徒指導が進められているが、外国籍及び日本語を母語としない帰国児童・生徒が依然高止まり傾向にあり、日本語指導支援員の必要性は依然として高い。教職員研修に関しては、新型コロナウイルス感染防止に努めながら、規模を縮小するなどして、研究開発学校の研究発表や校内研修をすすめ、教職員の資質向上が図られている。</p>
<p>必要性  (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p><input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある  <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある  <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明)          小学校1・2年生における学習支援や生徒指導及び小学校3年生から中学校3年生までの学力向上に係る、個に応じた指導の充実を図るためには、小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーターなどの人的配置が不可欠であり、学校規模に応じた配置を考えると、増員の検討も必要である。また、GIGAスクール構想の推進に伴い、学習における一人一台タブレット端末の効果的な活用が必要である。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明)          35人学級の実現を漸次進めていくことが閣議決定される中、小学校低学年補助教員やあさか・スクールサポーターの増員が求められることが予想される。また、GIGAスクール構想の推進において、効果的にタブレット端末を活用するため、教職員の資質能力の向上を図るとともに、適切な活用について、保護者、児童生徒の理解を得ることが必要である。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明)          今後も、あさか・スクールサポーター等の学校現場への人的配置については、学校規模に応じた適正配置をしていく。また、学校の課題解決に対応した配置となるよう、それぞれの学校の実態を事前に把握する。情報教育に係る学習環境の整備・充実に関しては、児童生徒用・教職員用のコンピュータの入替を計画的に進めるとともに、教員の指導力を高めていく。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p><input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明)          朝霞で育つ子供たち一人一人のよさや可能性を伸ばすために、確かな学力の定着を図るとともに、豊かな体験活動を通して、たくましく生きる力を育む教育の実現をめざし、行政と市民の関与バランスを維持する。今後も、地域の人材の活用が不可欠である。また、今後コミュニティ・スクールに代表される「社会に開かれた学校」から「社会とともにある学校」へと改革を進めるには、市民の力がこれまで以上に必要となってくる。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">R3に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>R1決算</th> <th>R2決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>4</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>計(単位:千円)</td> <td></td> <td></td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性	R1決算	R2決算見込	1						2						3						4						5						計(単位:千円)			—	—	—	<p><input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				R3に向けた 投入資源の方向性																																						
	R1決算	R2決算見込																																												
1																																														
2																																														
3																																														
4																																														
5																																														
計(単位:千円)			—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>朝霞市就学支援委員会において、小中学校では、学校生活において配慮を要する児童・生徒について、適切な指導を行う体制の充実を図るようにと意見をいただいた。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>児童生徒一人一人のきめ細かな学習支援、生徒指導という点で、市独自の人的配置は大変効果的である。教育研究奨励費を活用した若手教職員の自己研修や研究開発学校助成を活用した学校研修についても、教員の資質向上には欠かすことができないものである。情報教育については、ICT環境が急速に進展する中、プログラミング教育の必修化、GIGAスクール構想の推進など環境整備とともに活用・指導面での充実が求められている。まずは、学校における教育を充実させることで、全ての児童・生徒の確かな学力と自立する力の育成を目指す。</p>																																													

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	確かな学力と自立する力の育成			総合計画コード	312
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	学校教育部(教育総務課)				

施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
1	特色ある学校づくり支援事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
2	教職員研修事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
3	教育指導支援事業【再掲】	-	-	4	4	現状のまま
4	進路学習事業	1,235	786	4	4	現状のまま
5	日本語指導充実事業	4,465	3,699	4	4	拡大
6	国際理解教育事業	48,129	60,528	4	4	拡大
7	小学校特別支援学級事業	20,867	27,490	4	4	現状のまま
8	中学校特別支援学級事業	8,816	9,912	4	4	現状のまま
9	特別支援教育事業	18,754	22,383	4	4	拡大
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
	計 (単位:千円)	102,266	124,798	—	—	—

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	質の高い教育を支える教育環境の整備充実			総合計画コード	313
部名	学校教育部	主管課名	教育総務課	主管課部課コード	110100
関連部課名	学校教育部(教育管理課、教育指導課、学校給食課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	児童・生徒が通学する学校に誇りを持ち、安全で安心して学びやすい環境で学校生活を送っている。				
施策概要	研究開発学校の指定・校内研修の助成等により教職員の資質・能力の向上を図ることで質の高い教育環境の拡充に努める。今後の児童・生徒数の動向や校舎の老朽状態を把握し、施設の更新や修繕を図る。通学区の弾力化を推進し、各中学校の魅力ある学校づくりを推進するとともに、特認校制度を生かし第五中学校の活性化を図る。給食事業の充実をめざし、自校給食室の整備を進める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 2 年度
		朝霞市教育大綱		H 28 年度 ~	R 2 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	朝霞市教育委員会研究開発学校の指定と研究発表会の開催(五小・二中【文書発表】、六小【授業公開】)。プール槽塗装改修工事(一小)、校舎外壁改修及び屋上防水改修工事(五中)、その他の施設改修工事の実施。屋内運動場空調設備設置事業の設計(十小・一中・五中)及び工事(三小・六小・九小)の実施。特認校(五中)の生徒募集(申請及び許可人数 37人)。中学校自由選択制の実施(申請及び許可人数(特認校含む)118人)。第八小学校の自校給食施設及び普通教室整備工事の実施。					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	校舎等の老朽化状態を把握し、児童・生徒の安全・安心に係る施設修繕等を優先して実施した。				
	子育てがしやすいまち	校舎等の老朽化状態を把握し、児童・生徒の安全・安心に係る施設修繕等を優先して実施した。				
	つながりのある元気なまち	学校応援団等、ボランティアによる支援員に地域住民の方になっていただき、協働による学校運営を実施した。				
	自然・環境に恵まれたまち	屋上緑化、壁面緑化、緑のカーテンなど環境に配慮した事業を継続して実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		997,172	1,163,069	1,283,791	1,367,177	2,303,365

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 「教科等指導員」任命数 (説明) 経験もあり、小・中学校の教科・領域において指導のリーダーとなる知識や技能を持つ指導員	人	12	12	12	12	12
		8	10	9	15	0
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明)新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校等の影響により、成果指標の「教科等指導員」の任命を実施しなかったため、目標を達成できなかった。教職員研修のうち研究開発学校についての発表を1校は授業公開、2校は文書発表で行った。その他の研修については、校内研修の推進等により教職員の資質向上を図っている。学校の修繕等は校舎、体育施設、屋外環境の工事等を実施し、快適で安心・安全な教育環境の整備に努めた。なお、平成30年度から5か年で小・中学校の屋内運動場にエアコンを整備する事業を計画し、順次実施している。中学校自由選択制は134人の申請があったが、第二中学校の希望者のみ抽選となり118人の許可となった。そのうち第五中学校の特認校利用者は37人の申請があり、通学区域の弾力化並びに第五中学校の活性化に努めている。第八小学校については、自校給食施設及び普通教室設置工事を年度内に完成した。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明)教職員の資質向上のためには教職員研修が不可欠であり、GIGAスクール構想の推進に伴い、効果的なタブレット端末活用のための研修をより充実していく必要がある。学校施設の躯体耐震化、校舎のエアコン設置、トイレの洋式化、屋内運動場等の非構造部材安全対策工事は完了している。平成30年度からは災害時に避難所となる屋内運動場の防災機能の強化及び教育環境の向上のため、エアコンを設置する設計・工事を順次実施している。また、学校施設長寿命化基本方針及び公共施設マネジメント実施計画に基づき、施設の改修等を計画的に実施していく必要がある。特認校制度は第五中学校の活性化のために継続する必要があり、自由選択制度は就学指定校の変更を弾力的に運用する意味合いから引き続き必要である。
施策を進める上での問題点・課題	(説明)教育環境の充実のため、限られた財源の中ではあるが、財政状況や国の施策の動向を踏まえ、児童・生徒数の推移や施設の状況を的確に把握し、必要性や緊急性に配慮しながら、計画的な改修工事等を実施していく必要がある。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し (説明)教職員研修は、教職員の資質向上のため引き続き実施していく。災害時に避難所となる屋内運動場のエアコン設置工事は平成30年度から3校ずつ、5か年で工事を実施しており、令和4年度に完了する。老朽化していく学校施設の改修・修繕については、学校施設長寿命化基本方針及び公共施設マネジメント実施計画に基づき実施していく。なお、国の示す少人数学級への対応について必要な施設設備の改修等を実施していく。特認校制度及び中学校自由選択制度は中学校生活が充実したものになるように継続して実施していく。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明)市民(児童・生徒)の意見を取り入れながら、教育環境の充実を推進していく必要がある。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)						
部長の意見	新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休校等の影響により、令和2年度は教科等指導員の任命や研究開発学校を活用した研修等が計画どおり実施できなかったが、質の高い教育を児童生徒に行うためには教職員の資質・能力の向上は不可欠であるため、GIGAスクール構想に伴う効果的なタブレット端末活用を含め、引き続き教職員の資質・能力の向上に努めていく。教育環境の整備充実のため、屋内運動場の空調設備設置工事を計画的に進めていくとともに、老朽化の進む校舎等を計画的かつ緊急性を要する箇所から順次改修、整備を実施していく。また、国の少人数学級への対応に必要な施設設備の改修等を実施していく。通学区域の弾力化を推進するため、中学校で特認校制度及び中学校自由選択制度を実施している。各中学校はこの制度を活用し、引き続き魅力ある学校づくりを行っていく。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

<b>施策名</b>	質の高い教育を支える教育環境の整備充実		<b>総合計画コード</b>	313
<b>部名</b>	学校教育部	<b>主管課名</b>	教育総務課	<b>主管課部課コード</b> 110100
<b>関連部課名</b>	学校教育部(教育管理課、教育指導課、学校給食課)			

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 教職員研修事業	17,582	13,185	4	4	現状のまま
	2 教職員配置事業	13,660	32,799	4	4	現状のまま
	3 教育指導支援事業【再掲】	—	—	4	4	現状のまま
	4 特色ある学校づくり支援事業【再掲】	—	—	4	4	現状のまま
	5 交通指導員配置事業	55,409	69,580	4	4	現状のまま
	6 給食センター管理事業【再掲】	—	—	4	4	縮小
	7 自校給食室管理事業【再掲】	—	—	4	4	拡大
	8 給食食材放射性物質測定事業【再掲】	—	—	4	4	現状のまま
	9 就学・学齢簿整備事業	4,677	5,020	4	3	現状のまま
	10 通学区域整備事業	1,438	1,440	4	3	現状のまま
	11 第五中学校活性化対策事業	17,138	23,463	4	3	現状のまま
	12 入学準備金・奨学金貸付事業	17,861	18,165	4	4	現状のまま
	13 小学校運営事業	101,547	131,304	4	3	現状のまま
	14 小学校施設管理事業	214,299	234,640	4	3	現状のまま
	15 小学校図書整備事業	15,673	17,881	4	3	現状のまま
	16 小学校コンピュータ整備事業	78,725	512,521	4	3	縮小
	17 小学校施設改修事業	244,303	338,345	4	4	縮小
	18 小学校教育振興事業	17,505	12,695	4	3	現状のまま
	19 小学校教材教具整備事業	39,092	91,427	4	3	現状のまま
	20 小学校教育扶助事業	48,011	53,223	4	4	現状のまま
施策を 構成する 事務事業の 次年度の 方向性	21 中学校運営事業	63,261	68,928	4	3	現状のまま
	22 中学校施設管理事業	146,140	134,232	4	3	現状のまま
	23 中学校図書整備事業	11,335	10,505	4	3	現状のまま
	24 中学校コンピュータ整備事業	46,908	247,782	4	3	縮小
	25 中学校施設改修事業	83,184	189,663	4	4	拡大
	26 中学校教育振興事業	29,712	17,912	4	3	現状のまま
	27 中学校教材教具整備事業	24,357	22,679	4	3	現状のまま
	28 中学校教育扶助事業	50,409	50,084	4	4	現状のまま
	29 学校環境衛生事業	4,501	4,728	4	3	現状のまま
	30 小学校特別支援学級事業【再掲】	—	—	4	4	現状のまま
	31 中学校特別支援学級事業【再掲】	—	—	4	4	現状のまま
	32 第八小学校自校給食施設等整備事業【再掲】	—	—	5	5	R2で休止・廃止・終了
	33 学校施設長寿命化計画策定事業	20,450	1,164	5	5	R2で休止・廃止・終了
	34 学校運営協議会事業【再掲】	—	—	4	4	拡大
	35					
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
	<b>計 (単位:千円)</b>	1,367,177	2,303,365	—	—	—

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	学校・家庭・地域が連携した教育の推進			総合計画コード	314
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード	110300
関連部課名	生涯学習部(生涯学習・スポーツ課)、学校教育部(教育管理課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	学校において地域の人材が教育活動に関わることで、地域に根ざした特色ある学校づくりが推進されている。また、地域における奉仕活動・体験活動・防犯活動等を推進することにより、地域で子供を育てる意識が醸成され、地域の教育力が活性化している。				
施策概要	各学校における特色ある学校づくりを推進するため、支援員として地域の人材を活用する。また、中学校区における学校・家庭・地域のふれあい活動を推進する。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 2 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	各小・中学校において、地域の様々な分野の専門的な知識や技能を有する市民を、支援員として授業や部活動、教育環境整備等に活用した。 学校運営協議会を朝霞第二、第五、第九小学校で立ち上げ、合計28名を委員に任命した。 小中学校10校で学校評議員を校長の推薦に基づき、各学校5名委嘱した。 関係各団体代表者及び中学校区事務局長等で推進委員会を開催したが、新型コロナウイルスの影響を鑑み、ふれあい祭り等は中止した。(全中学校区で実施) コロナ禍の中でも、積極的に活動を続けた4団体(サークル2、PTA等2)に対し、補助金を交付するなど、運営面での支援を行うとともに、家庭教育学級報告集を作成し、学級生等に配布することで、次年度に向け、その取組を着実に周知した。					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	地域の方々の多くの目を通して、子供たちの成長を見守る活動を行った。				
	子育てがしやすいまち	家庭教育学級や子育て講座等を通し、家庭と学校また関係部署等と連携し、支援に努めた。				
	つながりのある元気なまち	校区ごとの実行委員会等で、新型コロナウイルスの感染状況を見極め、話し合いをすすめたが、ふれあい祭り等は中止した。				
	自然・環境に恵まれたまち	特色ある学校づくりとして花を育てる学校が複数あった。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度 88,551	H29年度 92,429	H30年度 82,225	R1年度(2019年度) 82,133	R2年度(2020年度) 79,113

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 学校応援団の活動人数 (説明) 市内各小・中学校で1年間に活動した学校応援団の総人数	人	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		3,150	3,240	3,267	3,560	3,261
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、各学校において地域の様々な分野の専門的な知識や技能を有する市民を支援員として授業等に活用し、特色ある学校づくりをそれぞれの学校の実態を踏まえて進めている。コミュニティ・スクールの立ち上げに伴い、地域や関係機関との連携の在り方について学校の教育活動を見直すこともできた。ふれあい推進事業については、新型コロナウイルスの感染状況を鑑み、ふれあい祭り等は中止した。家庭教育学級を運営する団体を支援し、年間の活動報告集を作成し、学級生に配布している。今年度は、コロナ禍により、多くの学級が活動を休止せざるを得ない状況の中で、僅かながらでも家庭教育を推進できたことは価値があったものと感じている。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input checked="" type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 各学校における特色ある学校づくりが、それぞれの学校の実態を踏まえて進められているが、今後より一層ニーズが増えていくと考えられ、学校・家庭・地域がより一体となった活動を推進していく。また、家庭教育学級では、子どもたちの人格形成の基礎を作り、社会のルールを教えるなど全ての教育の原点と考える中で、近年、核家族化や地域コミュニティの脆弱化等により、家庭の教育力の低下が大きな課題となっている。学校・家庭・地域が連携し、地域の仲間とともに親自身が子育てや親としての学習活動のできる家庭教育学級を推進していくことで、親が孤立したり、子育てに悩むことなく、家庭教育の力をつけていく必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 特色ある学校づくり支援事業では、数値に表れない学校応援団等、ボランティアによる支援員の活用が進められている学校もある。今後、社会に開かれた学校づくりという面でも、コミュニティ・スクールの立ち上げを一つの契機としてボランティアによる特色ある学校づくりの推進について研究していく必要がある。また、ふれあい推進事業は、地域に根ざした活動となった一方で、マンネリ化してきたという声も聞く。家庭教育学級については、コロナ禍の中でも工夫しながら、各団体の活動を支援するとともに、学校・家庭・地域が連携した教育が図られるよう、研修会や講演会の開催に努める。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 事業としての取組を継続して推進していくと同時に、ボランティアの活用を含めた内容の充実を図る。令和3年度より、さらに市内3校に学校運営協議会を設置するなど、学校・家庭・地域のつながりをさらに深めていく。家庭教育学級については、共働き家庭が一般化し、ライフスタイルも大きく変わる中、家庭と仕事の両立、親の時間のやりくりの中で、PTA活動や家庭教育関連事業活動に対する考え方、見方も大きく変わってきている。引き続き、家庭教育の必要性についてPRに努め、家庭教育学級の運営等相談に当たって行く。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) ふれあい推進事業など、すでに市民参加による活動が定着してきている。また、特色ある学校づくり支援事業においても、地域住民の協力が増えてきている。今後も学校・家庭・地域そして行政が連携を図りつつ事業の充実を図る。また、今後「社会に開かれた学校」から「社会とともにある学校」へと改革を進めるには、市民の力がこれまで以上に必要となってくる。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)						
部長の意見	全中学校区において、ふれあい推進事業が実施され、創意・工夫ある取組が地域の行事として定着している。今後も各中学校区における事業内容について、創意工夫を重ねていく必要がある。ふれあい推進事業と音楽活動事業、いずれも児童生徒の豊かな心をはぐむ意味合いから不可欠な事業である。また、今後も各学校においては、学校応援団とのさらなる連携をしていく必要がある。一方、学校・家庭・地域の連携を図るためには、地域とともにある学校づくりが求められている。今年度は、コミュニティ・スクールが5校となったが、引き続き、地域の教育力を生かすとともに、学校を核とした活動をより一層推進し、学校・地域、双方の連携強化につなげられるような施策の充実を図りたい。今後も、学校教育と生涯学習との連携が必要となってくると思われる。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	学校・家庭・地域が連携した教育の推進		総合計画コード	314
部名	学校教育部	主管課名	教育指導課	主管課部課コード 110300
関連部課名	生涯学習部(生涯学習・スポーツ課)、学校教育部(教育管理課)			

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 ふれあい推進事業	4,643	1,551	4	4	現状のまま
	2 特色ある学校づくり支援事業	62,196	68,718	4	4	現状のまま
	3 音楽活動事業	7,292	2,378	5	5	現状のまま
	4 家庭教育推進事業	6,336	3,284	4	3	現状のまま
	5 放課後子ども教室事業【再掲】	-	-	3	3	現状のまま
	6 学校運営協議会事業	1,666	3,182	4	4	拡大
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	82,133	79,113	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	生涯学習活動の推進			総合計画コード	321
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	市民の学習ニーズに応えた学習や学習情報の提供及び活動の充実が図られ、いつでも、どこでも、誰でもが学べる生涯学習環境が整っている。また、市民による自主的な活動が活発に行われるとともに、学習の中心となる人材の育成と活用が図られている。				
施策概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員会議、生涯学習推進会議等を開催する。</li> <li>・第3次朝霞市生涯学習計画に基づき、生涯学習の推進を図る。</li> <li>・生涯学習ガイドブック「コンパス」の発行など、生涯学習情報を提供する。</li> <li>・生涯学習に関する講座等を企画、運営する団体に補助金を交付し、活動を支援する。</li> </ul>				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 4 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員会議を3回開催した。会議では、第3次生涯学習計画の進捗管理を行うとともに、成年年齢引き下げに伴った、今後の成人式の方向性について建議いただき、本市の方向性が定まるに至った。</li> <li>・生涯学習ガイドブック「コンパス」を発行し、生涯学習情報の周知を図った。また、市民等の自主的な学習活動に対し、補助金を交付し、活動への支援を行った。</li> <li>・コロナ禍の中ではあったが、市民企画講座、生涯学習体験教室、家庭教育学級、放課後子ども教室など各種事業を工夫しながら実施し、生涯学習の啓発に努めた。</li> <li>・同じく、子ども大学あさかでは、規模を縮小せざるを得ず、例年のようには実施できなかったが、初めての試みでリモート開催するなどして実施することができた。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセ プト)の実施内容	安全・安心な まち	放課後子ども教室を開催し、子どもたちの安心・安全な居場所づくりに努めた。				
	子育てが しやすいまち	子ども大学あさかや放課後子ども教室を開催し、子どもたちの豊かな感性を養うとともに、生涯学習体験教室では、母と子で参加できるメニューを取入れ開催した。				
	つながりのある 元気なまち	市民企画講座や生涯学習体験教室など、様々な生涯学習事業を展開し、市民の学びのネットワークづくりに努めた。				
	自然・環境に 恵まれたまち	市民企画講座や子ども大学で、郷土朝霞について考えるとともに、朝霞市の歴史・文化や自然に親しむ事業を実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		37,155	38,853	48,748	51,667	44,380

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 生涯学習事業における満足度 (説明) 生涯学習に係る各種自主事業 における満足度	%	92.0	92.5	93.0	93.5	94.0
		92.9	93.6	91.0	89.1	89.2
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
(説明)	<p>社会教育委員会において、成人年齢の引き下げに伴う今後の成人式のあり方について建議いただき、本市の今後の方向性を決定することができた。また、第3次朝霞市生涯学習計画に基づいた総合的な本市の生涯学習体制の進捗管理を行い、計画的に事業展開を実施した。</p> <p>コロナ禍の中においても、工夫しながら各種の生涯学習関連事業を実施することができた。事業ごとの満足度は目標値を達成することはできなかったものの、リモート開催など新たな試みにチャレンジできた。</p>
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(説明)	<p>人生100年時代と言われる中で、生涯教育を求める市民ニーズは年々高まりつつある。今年度は、特にコロナ禍の中で、1回目の緊急事態宣言が発令され、自粛生活続いた後に始めた事業では、例年以上に応募が多く、市民の高い学習意欲がうかがえた。市としてもより一層の学習プログラムを設定していく必要性が求められる。また、市民や学習団体の主体的な学習活動を尊重し、引き続き支援するとともに、活動の場を提供し、協働した事業展開が行っていきけるよう調整していく必要性も求められている。</p>
施策を進める上での問題点・課題	<p>(説明)</p> <p>学校・家庭・地域が連携して、つながる社会教育を目指していくため、引き続き、学校や大学、企業などの民間機関、NPO等と連携や協働によるネットワーク体制を構築し、また、地域の学びと活動を活性化する人材の発掘、育成を行わなければならない。さらに、コロナ禍の中での新しい生活スタイルを意識し、取入れた生涯学習体制の構築に努める。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
(説明)	<p>第3次朝霞市生涯学習計画も策定から令和3年度で5年目となり折返しを迎えるところであるが、引き続き計画の基本理念である「一人一人が心豊かに ともに学び 生きるまち あさか」に基づき、①いつでも、どこでも、誰でも学ぶことができる生涯学習社会の実現、②人と人をつなぐ生涯学習社会の実現、③知の循環型社会の実現を目指し、各種生涯学習施策を推進していく。</p>					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明)	<p>第3次生涯学習計画では、生涯学習を進める上での基本方針の一つに「市民の主体性の尊重と協働による役割分担」と掲げ、生涯学習は学習者(市民)の自発的な意思で行うことが基本となっている。今後も市民の参画機会をサポートするとともに、市民とともに協働で学習活動を展開し、学びの支援を行っていく。</p>					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計 (単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<p>【外部評価委員会】 自ら学ぼうとする形も応援する為に自習できる環境の充実と共に、市民に自習出来る場所のPRも活発にするとよいと思いますがいかがか。</p> <p>【社会教育委員会】 生涯学習計画の今後における事業の方向性についての見直しについては、10年間という長いスパンの中、また、今年度はコロナ禍の中で、非常に不確定で、予測がつかない時代となっており、抜本的な見直しをしないといけない時代になっている。今後もその辺りをしっかりと捉え、次年度につなげていただきたい。</p>					
部長の意見	<p>今までに経験のなかった感染症の脅威の中で、新しく取組みを工夫しながら実施してきたことは評価に値する。具体的には、子ども大学あさかをリモートにより、開催したことや、成人式も3密を避けるために3部制に分けて実施したほか、他の事業も定員数を減らし、衛生的でスタイリッシュな事業展開を行ったことは、コロナ禍により「出来ない、やらない、集まらない」という常識を覆して本市の生涯学習が滞ることなく、歩み進められたものと考えている。令和3年度に向けても、更なる工夫を行いながら生涯学習施策が推進していくよう期待したい。</p>					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	生涯学習活動の推進			総合計画コード	321
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
1	生涯学習啓発推進事業	23,733	18,237	3	3	現状のまま
2	成人式事業	9,660	11,511	3	3	現状のまま
3	人権教育振興事業	8,978	4,926	3	3	現状のまま
4	放課後子ども教室事業	9,296	9,706	3	3	現状のまま
5	生涯学習計画策定事業	—	—	4	3	R3で休止・廃止・終了
6	家庭教育推進事業	—	—	4	3	現状のまま
7						
8						
9						
10						
11						
12						
13						
14						
15						
16						
17						
18						
19						
20						
21						
22						
23						
24						
25						
26						
27						
28						
29						
30						
31						
32						
33						
34						
35						
36						
37						
38						
39						
40						
41						
42						
43						
44						
45						
	計 (単位:千円)	51,667	44,380	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	学習しやすい環境整備の充実(公民館)		総合計画コード	322
部名	生涯学習部	主管課名	中央公民館	主管課部課コード 120300
関連部課名				

1. 施策概要

めざす目的成果	「いつでも」、「どこでも」、「誰でも」が学べる施設運営が図られ、市民ニーズに応じた学習、文化活動が充実することにより、市民は教養や健康の維持向上を図る機会を享受し、豊かな社会生活を営んでいる。			
施策概要	社会教育団体の活動に適切な支援を行うとともに、公民館運営に利用者の声を反映しサービスを充実する。 計画的に施設修繕を実施し、誰もが快適に利用できる施設管理を行う。			
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~ R 2 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~ R 8 年度
				H 年度 ~ H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止により令和2年4月2日から5月31日まで全館が臨時休館したため、利用者数は年間で約187,300人と減少したものの、6月の再開後は多くの社会教育関係団体が利用し、これまで同様に様々な学習活動が行われた。</li> <li>新型コロナウイルス感染拡大防止のため令和2年度の公民館まつりは、全館で中止となった。</li> <li>市民のニーズを意識しながら全館で22の事業を実施し、市民の学びの環境づくりと生涯学習活動へのきっかけづくりに取り組んだ。</li> <li>各館の設備・機器の緊急修繕を実施したほか、安全・安心な施設を目指し施設維持管理マニュアルに基づく自主点検を全館で行った。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	安全安心な施設利用のため、保守点検や修繕を実施した。				
	子育てがしやすいまち	親子で参加する講座や子どもを対象とした事業を実施した。				
	つながりのある元気なまち	各種サークル等が活発に活動できるよう公民館の運営を行った。				
	自然・環境に恵まれたまち	省エネルギーを意識した施設管理を行った。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度 232,589	H29年度 228,614	H30年度 224,555	R1年度(2019年度) 233,510	R2年度(2020年度) 294,550

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 公民館6館の年間利用率(貸館) (説明) 利用回数÷(開館日数×部屋数×3(時間区分)) ※6館の利用率の平均	%	68.7	68.8	68.9	69.0	69.0
		68.6	67.8	67.5	66.1	58.0
② 利用人数 (説明) 公民館6館の年間延べ利用人数	人	310,000	311,500	312,000	312,500	311,000
		306,945	302,722	299,077	285,799	187,300

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) 臨時休館や再開後も緊急事態宣言が発令されたこともあり、年間利用率及び利用人数とも前年より減少となっているが、6館で年間22事業を実施し、広く学習機会の提供を行った。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	公民館は、地域の生涯学習の拠点として、子どもから高齢者までが学ぶことができる環境や地域コミュニティの活性化などが求められている。今後も社会的背景の変化に伴い学習形態の変化などが考えられるが、さらなる生涯学習活動の推進が必要となる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 少子高齢化などから社会教育団体等の活動形態や状況の変化が考えられるので、利用者の意見などを聞いて、活動状況やニーズを分析し把握することが課題である。また、施設の老朽化が進んでいるため、適切な修繕等を計画的に進めていく必要がある。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 複数選択可 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
	公民館は、現代的・社会的課題に対応した事業を実施し、子どもから高齢者までが学ぶことができる環境や地域コミュニティの活性化など果たす方向性が必要である。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
	(説明) 主催事業や施設管理については、行政が主体となり取組む一方で、地域づくりやコミュニティ推進のコーディネーター役となり、市民とともに一層の協働を図る。また、公民館運営審議会などにおいて利用者の意見を伺い、公民館運営に反映させていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
計(単位:千円)			—	—	—	
<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載						
審議会等の第三者機関の評価(意見)	<b>【公民館運営審議会】</b> 新型コロナウイルスの感染拡大の中、事業を実施していただけるのは大変ありがたい。今後も周りの状況を見ながら少しでも事業を実施していただきたい。					
部長の意見	令和2年度は、常に新型コロナウイルス感染予防に明け暮れた一年であった。緊急事態宣言が2回あり、公民館活動が停滞したことは否めない。しかしながら、公民館は市民の主体的な生涯学習活動の場であることから、今後も新型コロナ対策を行いながら地域の課題に寄り添い、地域住民が学習を通して市民意識を高めたり、住民間の絆を深められるような学習プログラムの展開を実施して欲しい。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	学習しやすい環境整備の充実(公民館)		総合計画コード	322	
部名	生涯学習部	主管課名	中央公民館	主管課部課コード	120300
関連部課名					

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 中央公民館運営事業	27,872	30,106	3	3	現状のまま
	2 東朝霞公民館運営事業	17,341	18,289	3	3	現状のまま
	3 西朝霞公民館運営事業	18,292	19,172	3	3	現状のまま
	4 南朝霞公民館運営事業	12,866	11,128	3	3	現状のまま
	5 北朝霞公民館運営事業	17,649	18,654	3	3	現状のまま
	6 内間木公民館運営事業	12,141	13,065	3	3	現状のまま
	7 中央公民館管理事業	42,643	43,415	3	3	現状のまま
	8 東朝霞公民館管理事業	13,527	14,223	3	3	現状のまま
	9 西朝霞公民館管理事業	12,284	12,749	3	3	現状のまま
	10 南朝霞公民館管理事業	13,954	18,276	3	3	現状のまま
	11 北朝霞公民館管理事業	12,736	12,950	3	3	現状のまま
	12 内間木公民館管理事業	19,494	19,548	3	3	現状のまま
	13 施設改修事業	12,711	62,975	3	3	現状のまま
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	233,510	294,550	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

## 施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	学習しやすい環境整備の充実(図書館)			総合計画コード	323
部名	生涯学習部	主管課名	図書館	主管課部課コード	120400
関連部課名	生涯学習・スポーツ課、中央公民館				

### 1. 施策概要

めざす目的成果	全ての市民が利用しやすく、自らが学ぶための施設及び情報提供するための施設として、図書館サービスが提供されている。また、良好な施設管理が行われていることから、誰でも快適に利用できている。				
施策概要	ニーズの把握に努め、計画的な蔵書管理や資料・情報提供サービス、事業・講座の実施により、利用者に応じた図書館サービスを提供する。また、計画的に施設修繕を実施し、誰もが快適に利用できる施設管理を行う。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 2 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
		第2次朝霞市立図書館サービス基本計画		H 28 年度 ~	R 2 年度

### 2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<p>管理委託業務、契約業務を実施した。要修繕箇所については、契約事務及び施工監理により修繕を実施した。また、施設・設備点検の結果、要修繕箇所については随時修繕を実施した。その他、館運営に伴う土地、機器等の賃貸借契約を行なった。図書館改修工事の基本設計業務を委託により実施した。なお、本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、臨時休館、館内利用制限及びサービス制限等の対応を実施した。また、補正予算により、感染症拡大予防の一助として図書消毒機、空気清浄機を購入した。</p> <p>図書館サービス基本計画に基づき、図書館資料の選定から保存・廃棄までの管理、図書館資料の貸出の利用促進、障害者に対するサービスを実施した。感染症拡大予防のため、図書館まつり等の主要事業は中止した。ライブライリーミーティングや図書館協議会との協議を図りながら、第3次朝霞市立図書館サービス基本計画を策定した。</p> <p>図書館システムの管理、統計等の作成等を行なった。第2次朝霞市子ども読書活動推進計画にもとづき、朝霞市子ども読書活動推進連絡会を定期開催した。</p>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	来館者が安全で快適に施設利用ができるよう、施設の維持管理を実施した。				
	子育てがしやすいまち	子どもの読書活動の推進が図れるよう、幼児、児童の図書の充実や事業を実施した。				
	つながりのある元気なまち	学習しやすい環境整備を図るため、適切に施設の維持管理を実施した。				
	自然・環境に恵まれたまち	省エネ、省資源に配慮した施設管理・運営を実施した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		241,004	229,995	242,496	245,757	254,604

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 図書館等利用者数  (説明) 図書館本館、北朝霞分館、公民館図書室の年間延べ利用者数	人	281,000	282,000	283,000	284,000	285,000
		277,509	269,847	261,231	262,018	194,740 (見込み)
② 利用者満足度  (説明) 図書館本館、北朝霞分館への来館者を実施した満足度アンケート結果	%	90以上	90以上	90以上	90以上	90以上
		84.1	87.2	86.9	93.2	83.9

### 3. 施策の分析

<p>達成度</p> <p>(目標の達成状況はどうか)</p>	<p><input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点)</p> <p><input checked="" type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点)</p> <p><input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明)</p> <p>図書館利用状況の変化に加え、コロナ禍の影響もあり、図書館等利用者数、利用者満足度について目標を達成することができなかった。しかしながら、安定的に利用者に適切な資料が提供できるよう、資料を選書・蔵書するとともに、他市町村の相互貸借を利用して、適切に利用者に資料提供できていることなどが継続的に80%台を維持する高い利用者満足度に結びついているものと認識している。館運営では、利用者の意見・要望を館運営に反映させること等により、図書館サービスの向上や快適な図書館環境を提供することができた。これらから、目標どおりの成果が得られたものと考えている。</p>
<p>必要性</p> <p>(ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p><input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある</p> <p><input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある</p> <p><input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明)</p> <p>来年度から、利用者ニーズや社会状況の変化を踏まえ、新たに策定した第3次朝霞市立図書館サービス基本計画に基づき、サービスを提供していくことになる。引き続き、社会状況の変化や利用者ニーズ、様々な情報媒体の利用状況等を正しく把握しながら、図書館サービスを提供していく必要がある。</p> <p>また、来年度は第2次朝霞市子ども読書活動推進計画の見直し年度となる。次期計画についても、課題等を的確に把握するとともに新たな目標を設定することにより子どもの読書活動が推進できるよう図っていく必要がある。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設建設後30年以上が経過しており、引き続き適切な施設の維持管理を行う必要がある。</li> <li>限られた予算の範囲で、読書活動を推進させていく事業や展示の実施、図書館資料の充実をとおし、利用者数、貸出点数の増加や、利用者満足度を高めていく。</li> <li>時代の変化や電子図書の普及等、日常的に誰もがインターネットやスマートフォンを利用するようになり、図書館の利用状況にも変化が見られる。引き続き、これらの状況を注視し、図書館サービスのあり方を考えていく必要がある。</li> </ul>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p><input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明)</p> <p>施設管理維持及び施設運営は、行政が主体となり実施する。主催事業は、アンケートなどにより市民の声を反映しながら実施する。図書館まつりやらいぶらりコンサート等の市民との協働による実施事業は、今後も継続実施する。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">R3に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>R1決算</th> <th>R2決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 図書館管理事業</td> <td>37,520</td> <td>37,823</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>2 施設改修事業</td> <td></td> <td>11,336</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>R3で休止・廃止・終了</td> </tr> <tr> <td>3 図書館運営事業</td> <td>139,707</td> <td>134,476</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>4 図書館北朝霞分館管理事業</td> <td>3,054</td> <td>3,065</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>5 図書館北朝霞分館運営事業</td> <td>65,476</td> <td>67,904</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>拡大</td> </tr> <tr> <td>計(単位:千円)</td> <td>245,757</td> <td>254,604</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性	R1決算	R2決算見込	1 図書館管理事業	37,520	37,823	4	4	拡大	2 施設改修事業		11,336	5	5	R3で休止・廃止・終了	3 図書館運営事業	139,707	134,476	4	4	拡大	4 図書館北朝霞分館管理事業	3,054	3,065	3	3	現状のまま	5 図書館北朝霞分館運営事業	65,476	67,904	4	4	拡大	計(単位:千円)	245,757	254,604	—	—	—	<p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				R3に向けた 投入資源の方向性																																						
	R1決算	R2決算見込																																												
1 図書館管理事業	37,520	37,823	4	4	拡大																																									
2 施設改修事業		11,336	5	5	R3で休止・廃止・終了																																									
3 図書館運営事業	139,707	134,476	4	4	拡大																																									
4 図書館北朝霞分館管理事業	3,054	3,065	3	3	現状のまま																																									
5 図書館北朝霞分館運営事業	65,476	67,904	4	4	拡大																																									
計(単位:千円)	245,757	254,604	—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>図書館協議会において、令和2年度事業実施報告(中間)、令和3年度事業予定について説明した。報告内容、事業予定などを含め、了承をいただいた。また、朝霞市教育行政施策評価会議において、学識経験者からも適切な図書館運営を行っているとの評価をいただいている。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>未経験のコロナ禍を踏まえ、感染症予防策を講じて適切な館運営に努めてきたものと認識している。情報検索、情報入手が容易化された社会になりつつあり、紙媒体の出版物減少や読書離れなど、図書館を取り巻く環境の変化が、利用者数、貸出冊数の減少の一因となっている。このような状況のもと、利用者から高い満足度評価を受けていることは適切なサービス提供ができているものと思われる。今後も現行サービスを継続しながら、新たに策定した第3次朝霞市立図書館サービス基本計画に基づき、社会状況に応じた適切な図書館運営・サービスを提供していくことを心がけていただきたい。</p>																																													

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	学習しやすい環境整備の充実(博物館)			総合計画コード	324
部名	生涯学習部	主管課名	文化財課	主管課部課コード	120500
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	博物館は生涯学習活動拠点の教育施設として、郷土の歴史に触れあうとともに学習活動に活用されている。また、環境整備に努め、利用者が安全・安心に利用できている。				
施策概要	収集方針に基づいた郷土の様々な歴史的資料を、収集・保存し活用を図る。また安全・安心して利用できるように施設管理に努める。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度	~ R 4 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画後期基本計画		H 29 年度	~ R 8 年度
				H 年度	~ H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	博物館運営事業 展示については、常設展示のほか、ギャラリー展示「写真展～旧高橋家住宅の夏景色～」 「写真展～旧高橋家住宅の秋模様～」 「午房地山と武蔵野台地の穴墓」 収蔵資料紹介展示「教科書一学びとともにあるもの 明治から現代～」 「当館における資料の三次元計測技術の試験的導入に向けての取り組みについて」 小学校1年生博物館利用授業関連展示「ワタから糸へ」 博物館実習生展示を開催した。また、講座・講演会については、「埼玉県立自然の博物館研究発表会」「歴史講座 太田道灌状を読む」「古文書講座」を開催した。博学連携は、小学校1年生の博物館利用授業として、糸車で糸を紡ぐ映像を作成し、貸出を実施した。					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	来館者が安全に利用し、資料の適正な保管ができる施設管理				
	子育てがしやすいまち	家族で参加できる体験学習の実施と学校団体の受入れの充実				
	つながりのある元気なまち	各種展示や教育普及事業による生涯学習機会の提供により、市民の交流を促進する				
	自然・環境に恵まれたまち	市内の歴史や文化、自然環境を調査研究し、展示や教育普及を通じて市民の学習機会を提供する				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		110,954	105,317	184,655	77,460	89,004

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 博物館入館者数 (説明) 博物館に見学に来た人や講座などに参加した人の数	人	52,300	52,600	52,900	53,200	53,500
② (説明)		49,819	41,810	42,919	31,770	15,535

### 3. 施策の分析

<p>達成度 (目標の達成状況はどうか)</p>	<p>○ A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) ● D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) ○ B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) ○ E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) ○ C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)</p> <p>(説明) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、休館及び緊急事態宣言の発出もあり、来館者数は大幅に低下した。今回の来館者減は、博物館の内的要因によるものではなく、外的要因によるものと考えている。</p>
<p>必要性 (ニーズは今後どう変化するか)</p>	<p>○ A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある ○ D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある ● B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある ○ E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある ○ C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない</p> <p>(説明) 1月7日から3月21日までの緊急事態宣言下においては、外出の自粛要請が出されている中、身近な立ち寄り先として博物館が認識されたためか、春先に比べて、入館者の落ち込みは少なかった。博物館の資料などを目的に来館するコアな来館者と、外出の際に、休憩を兼ねて来館される方の2層化が見られ、館運営にとっても、対応が求められていると認識している。</p>
<p>施策を進める上での問題点・課題</p>	<p>(説明) 今回の新型コロナウイルスの感染拡大により、より多くの入館者があれば評価される時代は終わった。今後については、より安心・安全に来館者が過ごせるよう、「数」を捨てる事業展開と評価方法が求められる。また、オンライン等による事業展開も考えていく。</p>

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

<p>施策の方向性</p>	<p>〔複数選択可〕 <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し</p> <p>(説明) 博物館が他の社会教育施設と違うのは、現物資料があること、専門職たる学芸員が配置されていることがあげられる。 今後は、この物的資源と人的資源を生かした施策展開が必要とされる。 更に、事業の内容をより充実させるため、専門職員を拡充し、より多様な事業展開を行う必要がある。</p>																																													
<p>行政と市民の役割分担</p>	<p>● I 行政の関与(役割)を拡大 ○ II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 ○ III 市民の関与(役割)を拡大</p> <p>(説明) 市民のニーズを取り込み、事業内容を決定する際の一助としていく。ただし、市民ニーズに寄り添っただけでは、市民に新たな「気づき」を得ていただくことはできないため、専門職員の研究成果や外部の研究者の成果を様々な展示、講座などで市民に提供していく。</p>																																													
<p>施策を構成する事務事業の次年度の方向性</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事務事業名</th> <th colspan="2">総コスト(事業費+人件費)</th> <th rowspan="2">有効性 貢献度</th> <th rowspan="2">優先性 緊急性</th> <th rowspan="2">R3に向けた 投入資源の方向性</th> </tr> <tr> <th>R1決算</th> <th>R2決算見込</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1 博物館運営事業</td> <td>42,519</td> <td>42,955</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>2 博物館管理事業</td> <td>34,941</td> <td>46,049</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>現状のまま</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>4</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>計(単位:千円)</td> <td>77,460</td> <td>89,004</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性	R1決算	R2決算見込	1 博物館運営事業	42,519	42,955	4	4	現状のまま	2 博物館管理事業	34,941	46,049	4	4	現状のまま	3						4						5						計(単位:千円)	77,460	89,004	—	—	—	<p><input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載</p>
事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性				R3に向けた 投入資源の方向性																																						
	R1決算	R2決算見込																																												
1 博物館運営事業	42,519	42,955	4	4	現状のまま																																									
2 博物館管理事業	34,941	46,049	4	4	現状のまま																																									
3																																														
4																																														
5																																														
計(単位:千円)	77,460	89,004	—	—	—																																									
<p>審議会等の第三者機関の評価(意見)</p>	<p>指標の年間50,000人を超える人数は非現実、指標を見直したほうがよい。来館者のアンケートについては今後も継続していったほうがよい。ホームページの改善なども恒常的に行い、動画の配信なども考えていってもらいたい。</p>																																													
<p>部長の意見</p>	<p>年度当初から、新型コロナの緊急事態宣言により施設の閉館を余儀なくされ、その後も外出自粛要請などの影響により、博物館来館者数の減少は避けることができない一年間となった。 このような状況下での開館に際し、感染対策を講じながら展示内容の変更など工夫しての開催や、延期となった「丸沼の芸術の森コレクション」開催に向けての綿密な準備を行い、市民へ歴史・芸術作品を鑑賞する機会の提供に努める姿勢や取組について評価する。 今後においても、郷土の歴史をはじめとする学習機会の提供に努めていただきたい。</p>																																													

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	スポーツ・レクリエーション活動の推進			総合計画コード	331
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	誰でも いつでも どこでも楽しめる生涯スポーツ社会の実現が図られ、市民が日々スポーツ・レクリエーションに親しんでいる。また、東京2020オリンピック・パラリンピック開催に向け、スポーツ・レクリエーション事業を充実することにより、オリンピックに向けた機運が高まっている。				
施策概要	朝霞市スポーツ推進審議会及び朝霞市スポーツ推進委員会議の開催、学校体育施設開放事業、スポーツ教室やスポーツ大会等の開催、スポーツ・レクリエーション指導者育成講習会の開催、チラシやホームページを活用しスポーツに関する情報発信業務、事務等を行う。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 4 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
		第2期朝霞市スポーツ推進計画		H 23 年度 ~	R 2 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会議を開催し、東京2020オリンピック・パラリンピックを踏まえて、本市のスポーツ行政施策の方向性を共有し、スポーツ・レクリエーションの推進方策について検討した。</li> <li>・第2期スポーツ推進計画について、スポーツ推進審議会における審議やパブリックコメントを経て策定した(計画期間:令和3年~12年度)。</li> <li>・市民総合体育大会実行委員会及び体育協会に補助金を支出し、各団体の運営支援を行った。</li> <li>・市民体育振興奨励補助金及び青少年スポーツ振興補助金を支出し、市民・団体の活動を支援し、市民のスポーツ・レクリエーションの振興に努めた。</li> <li>・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成を図るため、オリンピック・パラリンピック室と連携し、支援部会(機運醸成・文化教育部会)を開催した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	事業検討の際には、高齢者や障害者も参加できるよう配慮した。新型コロナウイルスの感染拡大に対して事業実施を中止し、市民の安全について最優先の確保を図った。				
	子育てがしやすいまち	親子で参加し、ふれあいを深めるような事業を検討した。(新型コロナウイルス感染拡大に伴い事業は中止)				
	つながりのある元気なまち	事業検討の際には、自治会・町内会や、スポーツ推進委員、各団体との連携を図り共同での取り組みを図った。(新型コロナウイルス感染拡大に伴い事業は中止)				
	自然・環境に恵まれたまち	ウォークラリー大会のコース選定に際し、朝霞の歴史や風景に触れることができるものを積極的に取り入れた。(新型コロナウイルス感染拡大に伴い事業は中止)				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		39,770	50,125	48,003	48,454	45,888

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 週1回以上スポーツを行っている人の割合 (説明) 週1回以上スポーツを行っている人の割合	%	51.0	-	53.0	-	55.0
		48.1	-	-	48.4	-
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
	(説明) ・昨年度に実施したスポーツに関するアンケートでは、目標値を下回っていた。 ・当課が実施する各スポーツ事業について新型コロナウイルス感染症の影響により本年度は中止となり、事業を通じたスポーツ・レクリエーションの推進に障壁となった。特に、市民のスポーツ・レクリエーションの推進に大きな役割を果たしている市民体育祭については、昨年度に引続き中止となってしまった。 ・市民のスポーツへの関心を高めるべくスポーツ選手・団体の活躍や市長への表敬訪問を広報しているが、特に大栄翔の優勝に伴う催しがマスコミに広く報じられ、市のアピールにもつながった。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
	(説明) ・平均寿命が引き続き伸びている中で、単なる寿命の長さではなく、健康で長生きすること(健康寿命)がクローズアップされている。 ・終息の兆しを見せないコロナ禍の中で、感染防止に努めながら、肉体と精神の健康の維持のため、スポーツをすることへの関心も高まっている。 ・働き方改革や新しい生活様式が広まり、仕事以外の生きがいや交流の場が求められ、スポーツがその役割を期待されている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・主催事業について1か所に多くの人を集めるという従来の方法が、コロナ禍の中での感染防止と相いれない部分があり、内容について研究する必要がある。 ・市民がスポーツに親しむきっかけづくりとして、事業内容や周知方法を研究する必要がある。 ・体育施設は多くの人に利用していただいているが、施設・スペースは限られており、効率的な使用方法だけでなく、体育施設以外の場でできる運動の紹介なども必要と思われる。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し						
	(説明) ・第2期朝霞市スポーツ推進計画を策定したところであり、今後、各種施策を実施して市民がスポーツに触れる機会を提供し、「みる・ささえる・つながる」スポーツから「する」スポーツにつなげ、同計画の目標である「20歳以上の市民のうち、60%が週1回以上スポーツをおこなうこと」を目指していく。 ・体育施設の指定管理者である文化・スポーツ振興公社とさらに連携しながら、市民への啓発・事業実施を進める。						
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) ・体育協会やスポーツ関係団体、自治会・町内会などとの連携を図るとともに、市民の意見を取り入れながら、効果的に事業を展開していく。						
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名		総コスト(事業費+人件費)		有効性	優先性	R3に向けた
			R1決算	R2決算見込	貢献度	緊急性	投入資源の方向性
	1 スポーツ振興事業		26,716	26,809	3	3	現状のまま
	2 オリンピック・パラリンピック事業		-	-	4	4	R3で休止・廃止・終了
	3 スポーツ団体等補助事業		21,738	19,079	3	3	現状のまま
	4						
5							
計(単位:千円)		48,454	45,888	—	—	—	
<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載							
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【スポーツ推進審議会】 スーパーアスリートだけでなく、高校生や中学生、市内企業の陸上部の選手など、身近な選手との触れ合いなどを働きかけても良いのではないかと。						
部長の意見	本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業がごとごとく中止となってしまった。各事業は、スポーツの機会・情報を市民に提供する重要な手段であることから、来年度については、感染状況を注視しながら、関係団体等と密接に連携・調整を図りつつ、必要な対策を十分に検討し、事業の実施に向けて推し進めたい。						

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	スポーツ施設の整備充実			総合計画コード	332
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	スポーツ施設の修繕や大規模改修を計画的に実施することにより、ユニバーサルデザイン等を考慮した、安心して利用できる施設・設備が整っている。また、利用者の声を反映した施設の良好な管理・運営がされている。				
施策概要	施設の整備として、各体育施設の修繕、大規模改修を計画的に進める。 施設運営としては、予約管理システムの適切な運用と施設の管理体制の効率化や計画的な維持管理を行う。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 4 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
		朝霞市スポーツ推進計画		H 23 年度 ~	R 2 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会体育施設(総合体育館、武道館、滝の根テニスコート)及び公園体育施設の指定管理を実施した。</li> <li>・総合体育館大規模改修を完了し、リニューアルオープンした。</li> <li>・溝沼子どもプールの維持管理を実施した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	総合体育館の大規模改修に当たってエレベーターを設置するなど、誰もが使いやすい施設となるよう、指定管理者と連携して管理・運営をしている。				
	子育てがしやすいまち	指定管理者と連携し、親子でともに参加できる事業などを企画するとともに、親子で使いやすい施設の管理・運営に配慮している。				
	つながりのある元気なまち	使いやすい活動場所の提供により、スポーツ・レクリエーションを通じ、地域コミュニケーションの推進を図った。				
	自然・環境に恵まれたまち	総合体育館の大規模改修に伴い、館内の照明をLED化するとともに、アリーナに新設した空調設備についても省エネタイプのものを導入した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		188,257	290,336	306,477	575,988	752,602

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 体育施設(14施設)の利用 率 (説明) 体育施設(14施設)の利用 率	%	61.0	62.0	63.0	64.0	65.0
		58.5	59.3	59.2	60.6	61.0
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input checked="" type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点)
(目標の達成状況はどうか)	(説明) ・総合体育館の大規模改修が完了し、リニューアルオープンした。照明器具などの更新、空調設備の新設など、利用者から評価する多くの声があり、利用率も高い。 ・新型コロナウイルスの感染防止策により、各施設の一時休所や夜間の短縮利用など、利用者には大きな影響があった。溝沼子どもプールについては今年度の開所を見送った。 ・指定管理者との連絡調整を密にし、施設管理・運営について安全に実施でき、市民に活動の場を効果的・効率的に提供することができた。
必要性	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない
(ニーズは今後どう変化するか)	(説明) ・施設の経年劣化は進行していくことから、適切に維持管理を図る必要がある。また、老朽化が指摘される施設についての長寿命化や耐震化など大規模改修が計画されている。 ・健康管理や仕事以外のコミュニケーションなどへの市民の関心の高まりから、スポーツをする場所へのニーズは引続き増していくものと考えられる。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) ・現在の財政状況の中で、関係部署と調整しながら、全庁的な方向性の中で、各施設の必要な改修・修繕を行っていく必要がある。 ・新規施設が見込めない中で、現有施設のさらなる効率的な利用を進めていく必要がある。 ・新型コロナウイルスの感染防止のため適切な対応策をとる必要がある。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し					
(説明)	・文化・スポーツ振興公社との連携により、各施設の効果的な維持管理と施設運営を図っていく。 ・関係部署と調整を図り、必要な改修・修繕を適切に実施していく。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大					
(説明)	体育協会やスポーツ推進審議会などの意見とともに、利用者や市民の意見を収集する機会を設け、ニーズを的確にとらえ、施設の運営に生かしていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)						
部長の意見	本年度は、新型コロナウイルス感染症への対応により、一時休所や時間短縮など、施設の管理運営にも利用者にも大きな影響が生じた。その中で、管理運営については、指定管理者と連携し、大きな事故もなく実施することができた。今後も、指定管理者と十分にコミュニケーションをとり、市民の利用しやすい管理運営を図ってもらいたい。また、各施設の改修については、関係部署と調整し、計画的に実施していく必要がある。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	スポーツ施設の整備充実		総合計画コード	332	
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 滝の根テニスコート管理運営事業	18,771	19,053	3	3	現状のまま
	2 総合体育館管理運営事業	47,770	50,808	3	3	現状のまま
	3 総合体育館施設改修事業	382,443	565,071	3	3	R3で休止・廃止・終了
	4 武道館管理運営事業	9,917	12,254	3	3	現状のまま
	5 溝沼子どもプール管理運営事業	33,754	15,203	3	3	現状のまま
	6 溝沼子どもプール施設改修事業	4,677	2,898	3	3	現状のまま
	7 公園体育施設管理運営事業	77,725	82,259	3	3	現状のまま
	8 滝の根テニスコート施設改修事業	155	155	3	3	現状のまま
	9 武道館施設改修事業	388	388	3	3	現状のまま
	10 公園体育施設改修事業	388	4,513	3	3	現状のまま
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
施策を 構成する 事務事業の 次年度の 方向性	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
		計 (単位:千円)	575,988	752,602	—	—

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	歴史や伝統の保護・活用			総合計画コード	341
部名	生涯学習部	主管課名	文化財課	主管課部課コード	120500
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	市民が地域の歴史や文化財について身近に接する機会が増え、郷土に対する愛着や文化財保護の理解と認識が深まっている。				
施策概要	市内の文化財に関する調査を行い、保護活用を促す。郷土芸能においては継承のための活動を支援していく。また博物館資料を活用して各種展示事業や教育普及事業において活用していく。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 4 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画後期基本計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種媒体を通じて情報提供を行い、文化財に関する啓発を行った。</li> <li>文化財保護関係団体への補助金交付をはじめ、溝沼獅子舞の広報活動や根岸野謡の披露の場など郷土芸能に対する保護・支援を行った。</li> <li>埋蔵文化財の発掘調査等を実施、また発掘調査報告書を「大山第二遺跡第3地点」と「稲荷山・郷戸遺跡5・6・10・11地点」の2冊を刊行した。</li> <li>指定文化財に関しては、二本松・広沢の池・柵塚古墳歴史広場・湧水代官水等の保存管理を行った。また重要文化財旧高橋家住宅の保存・管理及び公開、活用事業を実施した。</li> <li>新しく、泉水山・富士谷遺跡出土浅鉢形土器を朝霞市指定有形文化財に指定し、博物館で展示公開した。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト) の実施内容	安全・安心なまち	来館者が安全に利用できる施設管理				
	子育てがしやすいまち	家族で参加できる体験学習の実施と学校団体の受入れの充実				
	つながりのある元気なまち	旧高橋家住宅及び柵塚古墳におけるボランティアとの協働				
	自然・環境に恵まれたまち	武蔵野の面影を活かした地域の文化財や博物館資料の保護・活用				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度 72,033	H29年度 72,243	H30年度 74,237	R1年度(2019年度) 74,975	R2年度(2020年度) 81,357

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 重要文化財旧高橋家住宅 来園者数  (説明) 重要文化財旧高橋家住宅を 訪れた人や講座に参加した人 の数	人	11,640	11,680	11,720	11,760	11,800
		14,161	13,343	13,724	14,215	7,216
②  (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、休館及び緊急事態宣言の発出もあり、来館者数は大幅に低下した。今回の来館者減は、博物館の内的要因によるものではなく、外的要因によるものと考えている。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) シティプロモーションや東京オリンピック開催の動きのなかで、地域の歴史、文化にアイデンティティを求め、文化財などの歴史資源を観光資源として使用しようとする動きが活発化してきており、文化財に対する意識が高まってきている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 市内の住宅建設が増えており、それに伴う試掘・発掘調査が増加しており、体制の拡充が求められる。重要文化財旧高橋家住宅は開園から10年が経過し、茅葺屋根等の補修が必要になってきている。新型コロナウイルス拡大により、人々の田園回帰が進んでいる中、身近な田園として重要な施設であり、今後施設の更新が必要になってくる。また重要文化財の保有者としての責務を問われるので、注意が必要。また、新型コロナウイルス感染拡大を予防しながらの文化財の活用について、その方策を考えていく必要がある。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input checked="" type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 文化財の保護・管理とともに、文化財を市の特徴を示すシティプロモーションとして使用できるよう、関係各課との情報共有を行っていく必要がある。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 重要文化財旧高橋家住宅のボランティア、博物館で活動する研究団体との連携をはかり、協働しながら文化財の保護・活用および事業の実施を進めていく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1					
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)			—	—	—
	<input checked="" type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	新型コロナウイルス感染拡大により体験学習などが中止とされたが、代替で写真展を実施したことはよかった。旧市史編さん室で整理を行い、所蔵者に返却している古文書などについては、保存状況などについて継続的に追跡していく必要がある。					
部長の意見	今年度においても、指定文化財について、定期的に状況観察ないし必要に応じた措置を施し維持管理できたことは重要であるとする。また、今年度はコロナによる影響で、地域イベントによる芸術文化を紹介する機会を設けることができなかったが、今後においても地域的特色について学術的な研究調査を進め、後世に文化・歴史を伝授するよう準備に努めてもらいたい。					

**施策評価シート【別紙】施策を構成する事務事業の次年度の方向性**

施策名	歴史や伝統の保護・活用			総合計画コード	341
部名	生涯学習部	主管課名	文化財課	主管課部課コード	120500
関連部課名					

	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
		R1決算	R2決算見込			
	1 文化財保護普及事業	7,450	8,725	4	4	現状のまま
	2 指定文化財等保護管理事業	17,256	17,296	4	4	現状のまま
	3 埋蔵文化財調査保存事業	27,639	31,641	5	5	現状のまま
	4 埋蔵文化財センター管理事業	6,764	7,850	4	4	現状のまま
	5 旧高橋家住宅管理運営事業	15,866	15,845	5	5	現状のまま
	6 博物館運営事業	-	-	4	4	現状のまま
	7					
	8					
	9					
	10					
	11					
	12					
	13					
	14					
	15					
	16					
	17					
	18					
	19					
	20					
	21					
	22					
	23					
	24					
	25					
	26					
	27					
	28					
	29					
	30					
	31					
	32					
	33					
	34					
	35					
	36					
	37					
	38					
	39					
	40					
	41					
	42					
	43					
	44					
	45					
	計 (単位:千円)	74,975	81,357	—	—	—

施策を  
構成する  
事務事業の  
次年度の  
方向性

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	芸術文化の振興			総合計画コード	342
部名	生涯学習部	主管課名	生涯学習・スポーツ課	主管課部課コード	120100
関連部課名					

1. 施策概要

めざす目的成果	市民が芸術文化活動の成果を発表できる場と機会を得るとともに、より身近で優れた芸術文化に親しめる機会が提供されている。 各種団体やグループをネットワーク化し、市民の自主的な活動の充実と活性化をはかり、芸術文化に感心を持つ市民の活動が促進されている。				
施策概要	朝霞市文化祭等文化事業の開催、朝霞市文化協会の活動の支援。				
個別計画 関連計画	計画名称	朝霞市教育振興基本計画	計画期間	H 25 年度 ~	R 4 年度
		第3次朝霞市生涯学習計画		H 29 年度 ~	R 8 年度
				H 年度 ~	H 年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	令和2年度においては、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「芸術文化展」、「市民芸能まつり」、「文化祭」などの文化協会との事業、また、夏休み親子陶芸教室といった芸術・文化事業はほぼ中止した。					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	感染拡大防止のため、3密を誘発するイベントになってしまう事業は中止とした。				
	子育てがしやすいまち	子どもや親の安全も考え、芸術文化体験事業、夏休み親子陶芸教室などを中止とした。				
	つながりのある元気なまち	市民との協働開催である文化事業は文化協会の皆さんなどと協議し、苦渋の決断で中止することを決定した。				
	自然・環境に恵まれたまち	感染拡大防止のため、今年度は集客性のあるイベントを中止とし、芸術・文化や伝統などが引き続き次代へと伝承していくよう配慮した。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		8,453	8,991	11,388	11,419	7,191

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 芸術文化展、芸能まつり、 文化祭の入場者数  (説明) 芸術文化に親しめる 機会の提供と市民の芸術文化 活動の発表の場の充実	人	24,000	25,000	25,500	26,000	26,500
		18,631	14,534	19,010	18,570	0
②  (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input checked="" type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) コロナウィルス感染症が蔓延する中、文化協会との共催事業は全て中止とした。また、夏休み親子陶芸教室、夏休み親子手作り講座といった文化事業も残念ながら中止とせざるを得なかった。しかしながら、コロナ禍の中で、感染症に対してどのように対策を図り、芸術・文化事業施策を継続推進していかねばならないか学ぶ機会も得られたため、次年度に向けては様々な方策を検討しながら、事業展開に努めたい。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input checked="" type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 世界的な感染症の蔓延により、危機的な状況下の年度であったものの、伝統文化の伝承や芸術文化の振興は、暮らしや心の豊かさ、地域コミュニティの振興の面でも大切である。引き続き、市民や市が一体となり、文化の振興に努めていくことは、次世代への担い手の継承や、市民それぞれの交流機会ともなり、コミュニティの活性化にもつながる。文化に触れる事は、文化教育の格差をなくす側面も有するほか、豊かな市としての構築が図られるものと考えている。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 文化事業への参加数を増やすために、文化協会と意見交換を行い、新たな事業なども積極的に取入れていくことが必要である。ことに、令和3年度はオリンピック・パラリンピック開催年でもあるため、関係課とも連携し、市を挙げたイベント等を視野に入れ、考慮していくことが必至である。また、若い世代や障害をもった方など、多くの方が芸術・文化に親しむことができるような体制づくりを推進しなければならないものと考えている。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	〔複数選択可〕 <input type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) 新型コロナウイルス感染症の収束の見通しが立たない中ではあるが、青少年や子どもなどの若い世代、また、障害をもった方など幅広く参加できる事業を継続して実施し、芸術・文化の継承に努めるとともに、そこから交流が生まれ、芸術・文化を身近に感じ親しみ、豊かな市民文化が醸成され、継承していくよう努める。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input checked="" type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 芸術文化事業は、文化協会との協働であり、運営については文化協会に負うところが多い。今後も、文化協会と連携を密にして朝霞市の芸術・文化の振興に努めていくことが重要である。そのほか、市内には芸術に造詣の深い方々も多く活動されているので、こうした皆さんにも協力いただきながら、芸術・文化施策を推進していく。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1 芸術文化振興事業	11,419	7,191	3	3	現状のまま
	2					
	3					
	4					
	5					
	計(単位:千円)	11,419	7,191	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	【外部評価委員会】文化協会と指定管理者である朝霞文化・スポーツ振興公社との関係はどうなっているか。それぞれの団体組織の役割分担、主な活動内容、年間予算の規模と主な支出項目の内訳(額)を教えてください。 【社会教育委員会】コロナ禍の中で、皆さん工夫して文化活動など実施しておりますし、続けようとしています。現在、文化活動も難しいとは思いますが、続ける努力をして欲しいと思います。					
部長の意見	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今年度の芸術・文化事業は実施することが出来なかったが、次年度へ向けての創意工夫を研ぎ澄ます大きな機会と捉え、新たな事業展開に期待したい。令和3年度は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を控えており、本市の貴重な文化の担い手である朝霞市文化協会や丸沼芸術の森と手を携えオリ・パラのもう一つの目標である日本文化ひいては朝霞の地域文化を全国、世界に発信して欲しい。					

施策評価シート(対象:R2年度実施施策)

R3年度(2021年度)評価

施策名	地域文化によるまちづくり			総合計画コード	343
部名	市民環境部	主管課名	地域づくり支援課	主管課部課コード	020400
関連部課名	市長公室(政策企画課)、市民環境部(産業振興課)				

1. 施策概要

めざす目的成果	朝霞市民まつり「彩夏祭」などの地域イベントが市民の手で継続して開催され、地域文化が継承されており、郷土に対する愛着や誇りを持てるまちとなっている。						
施策概要	朝霞市民まつり「彩夏祭」の実施主体である朝霞市コミュニティ協議会に対し、朝霞市民まつり補助金を交付する。						
個別計画 関連計画	計画名称	計画期間	H	年度	~	H	年度
			H	年度	~	H	年度
			H	年度	~	H	年度

2. 実施結果

R2年度の 施策の実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティ協議会に補助金を交付【補助金】運営費補助金405千円、市民まつり補助金18,500千円を補助。</li> <li>・よさこい鳴子踊りに参加する小・中学校に補助金を交付【補助金】市内小学校2校に200千円(各校100千円上限)を補助。</li> <li>・コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営。</li> <li>・彩夏祭の中止に伴う代替イベントの実施。</li> </ul>					
R2年度の 基本概念(コンセプト)の実施内容	安全・安心なまち	市民が安心して地域文化に親しむことができるよう、イベント等の実施の際には安全に配慮した。				
	子育てがしやすいまち	本市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図り、次世代の文化の担い手を育成するため、市民まつりにおけるよさこい鳴子踊りに参加する市立小・中学校に補助金を交付した。				
	つながりのある元気なまち	市民まつりを主催する朝霞市コミュニティ協議会に市民まつり補助金を交付した。				
	自然・環境に恵まれたまち	本市の自然や環境を生かした朝霞独自の文化の継承・創出・育成に努めた。				
総コスト (事業費+人件費)	単位:千円 (決算)	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度(2019年度)	R2年度(2020年度)
		5,364	5,598	4,868	4,681	5,079

指標名 (説明)	単位	H28年度	H29年度	H30年度	R1年度 (2019年度)	前期基本計画目標 R2年度(2020年度)
		目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画	目標・計画
		実績	実績	実績	実績	実績(見込)
① 朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数 (説明) 朝霞市民まつり「彩夏祭」に来場した人数(3日間合計)	人	700,000	700,000	700,000	700,000	700,000
		700,000	710,000	700,000	710,000	0
② (説明)						

### 3. 施策の分析

達成度  (目標の達成状況はどうか)	<input type="radio"/> A 目標・計画を大幅に上回る成果があがっている(5点) <input checked="" type="radio"/> D 目標・計画を下回り、十分な成果があがらなかった(2点) <input type="radio"/> B 目標・計画を十分に上回る成果があがっている(4点) <input type="radio"/> E 目標・計画を大幅に下回り、ほぼ成果があがらなかった(1点) <input type="radio"/> C 目標・計画どおりに成果があがっている(3点) (説明) 新型コロナウイルス感染症の影響により、彩夏祭をはじめ、様々なイベントが中止となるなど、目標を達成することができなかったが、地域文化が適切に継承されるよう代替イベントの実施などにより、地域コミュニティの形成に寄与することができた。
必要性  (ニーズは今後どう変化するか)	<input checked="" type="radio"/> A ニーズ及び解決すべき課題は大きく増加する方向にある <input type="radio"/> D ニーズ及び解決すべき課題は減少する方向にある <input type="radio"/> B ニーズ及び解決すべき課題は増加する方向にある <input type="radio"/> E ニーズ及び解決すべき課題は大きく減少する方向にある <input type="radio"/> C ニーズ及び解決すべき課題は現状と変わらない (説明) 地域文化を育て、発信し、まちを盛り上げるためにも市民まつりの果たす役割は重要である。ふるさと朝霞の文化として、市民まつりに対する市民の期待度は引き続き高いと考えられる。 また、市民まつり以外の地域文化について、黒目川花まつりなど朝霞を代表する四季のイベントに対する市民の期待感が高まっているため、今後も地域活性化のために積極的に発信・支援する必要がある。
施策を進める上での問題点・課題	(説明) 人口の流出が多い都心のベッドタウンである本市では、ふるさと意識が希薄になりがちで、かつ独自の文化が育ちにくい土壌である。今後のまちづくりにおいては、ふるさと意識を形成し、市民が地元に着と誇りを持てるよう、「彩夏祭」「黒目川花まつり」「朝霞アートマルシェ」「どんぶり王選手権」などの地域イベントに代表される市民が共有できる地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。

### 4. 今後の展開方針〔部としての判断〕

施策の方向性	[複数選択可] <input checked="" type="checkbox"/> 重点化 <input type="checkbox"/> 内容の見直し (説明) イベントの開催にあたっては、従来の安全管理に加え、感染症対策を徹底していく。 ふるさと意識を育み、形成・継承していくために、市民まつりのよさこい鳴子踊りに地元の園児や小・中学生に多く参加していただき、一体感を得ることで地元への愛着や帰属意識が芽生えるよう支援していく。 都市間交流については、市民レベルでよさこい鳴子踊りを通しての交流などが行われており、今後も市民同士の交流を見守り、必要な支援を実施する。					
行政と市民の役割分担	<input type="radio"/> I 行政の関与(役割)を拡大 <input type="radio"/> II 行政・市民の関与(役割)バランスを維持 <input checked="" type="radio"/> III 市民の関与(役割)を拡大 (説明) 市民まつりは市民が主役のイベントであり、主催団体であるコミュニティ協議会や市民まつり実行委員会が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、これまで市が担っていた役割について、市民が実施できるものは積極的に担当していただけるように役割分担を見直す。					
施策を構成する事務事業の次年度の方向性	事務事業名	総コスト(事業費+人件費)		有効性 貢献度	優先性 緊急性	R3に向けた 投入資源の方向性
	1 オリンピック・パラリンピック事業	—	—	5	5	R3で休止・廃止・終了
	2 コミュニティ推進事業	—	—	5	5	現状のまま
	3 シティ・セールスイベント事業	—	—	4	4	現状のまま
	4 国際・都市間交流事業	4,681	5,079	4	4	現状のまま
	5					
	計(単位:千円)	4,681	5,079	—	—	—
	<input type="checkbox"/> 6事業以上の事務事業の位置付けがあるため、別紙に記載					
審議会等の第三者機関の評価(意見)	関連する第三者機関なし					
部長の意見	市民まつりなど地域イベント活性化のため、市としても必要な支援をしていく。					